

令和5年度

川崎市立小学校図画工作科研究会 研究について

1. 研究テーマ・サブテーマ

テーマ

つくりだす喜び 感じる楽しさ

サブテーマ

～「造形的な見方・考え方」が働くような手立てを通して～

(1) 研究テーマについて

本研究会では、子どもは「よりよく生きたい」という願いをもちながら、豊かな自己実現を目指している存在であるととらえ、これまで研究を進めてきた。子どもは、「自分らしいよさや美しさを表したい」という思いをもって図画工作科の授業に取り組んでいる。その思いは、主題、材料、表現方法、場所など、様々な対象と出会うこと、また、それらの対象に働きかけることによってふくらみ、子どもはそのふくらんだ思いを形や色で表しながら、よりよい造形的な創造活動をめざしている。

よりよい造形的な創造活動をめざす中で生まれるのが「つくりだす喜び」である。子どもは、よりよい造形的な創造活動の中で多様な主題、表現活動、表現方法などを生み出しながら活動を豊かなものにしていくとともに、「よりよく活動できた、表現できた」という満足感や達成感などを実感していく。そして、この「つくりだす喜び」が子どもの表現欲求を満たしていく。そこでは、見たり感じたりする力、次にどのような形や色にするかを考える力、それを実現するために用具や表し方を工夫する力、一度つくったものを改めて見て新たなものをつくりだそうとする力などを働かせる。その中で、子どもは、自分の存在を感じながら、新しいものや未知の世界に向かう楽しさへとつなげていこう。これこそが、「感じる楽しさ」であると考えられる。このような子どもの実感は、図画工作科の目標「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す」に迫るために、最も大切なものである。



以上から、今年度も研究テーマを「つくりだす喜び 感じる楽しさ」とした。これには教師が「つくりだす喜び 感じる楽しさ」につながる授業を目指すことで、子どもの「深い学び」を実現させていこうという意味をこめている。子どもが「つくりだす喜び 感じる楽しさ」を実感することを通して、自己肯定感を高め、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力をさらに高めていけるような図画工作科を目指して研究を進めていきたい。

サブテーマについて

1 「造形的な見方・考え方」と「主体的・対話的で深い学び」

学習指導要領で大切にされている「深い学び」。それを実現させるための鍵として、各教科の「見方・考え方」が必要とされている。図画工作科では、「造形的な見方・考え方」として、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくり出すこと」と示されている。教師は、子どもが「主体的・対話的で深い学び」が実現できるように、「造形的な見方・考え方」を働かせながら学習できる授業をつくっていく。そして、子どもがもつ造形的な資質・能力をさらに伸ばし、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成できるようにしていく。

そのような学習の過程で、子どもが自分の思いを実現しながら、「つくり出す喜び 感じる楽しさ」を実感できるようにしていきたい。

授業を構想するにあたっては、まず、以下に示す「育成を目指す資質・能力の三つの柱」から、子どもの実態をみとる。

[知識及び技能]	[思考力、判断力、表現力等]	[学びに向かう力、人間性等]
知識 [共通事項]ア 創造的な技能	発想・構想の能力 [共通事項]イ 鑑賞の能力	各学年の目標を参考にする

これらを「資質・能力」として、さらに高められるように題材を構想していく。その際、[共通事項]を踏まえる。

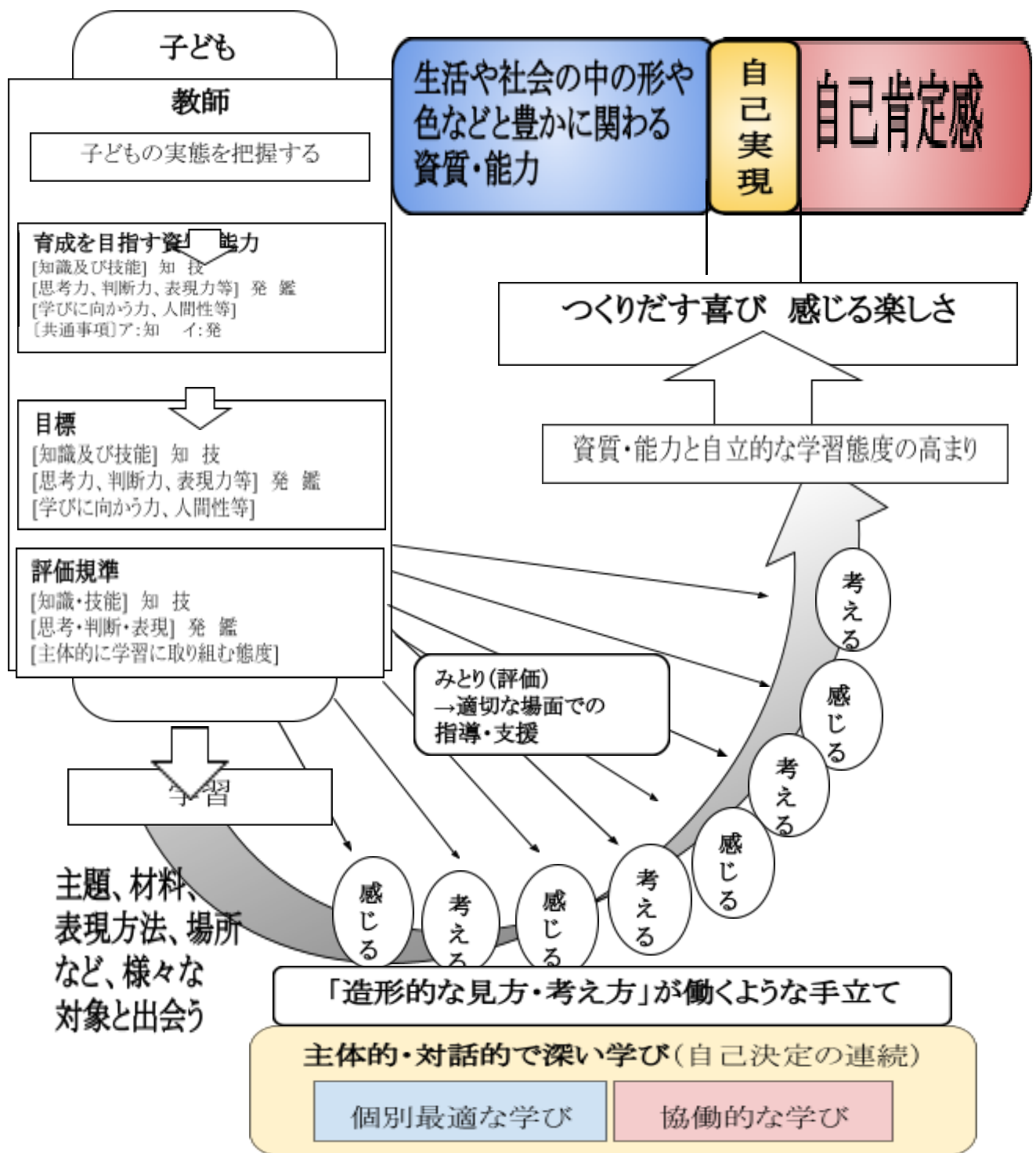
その上で、子どもが活動の中で「造形的な見方・考え方」を働かせながら、自分で「感じる」「考える」ことを大切にし、自己決定できるような手立てをとるようにする。活動の中で、「感じる」「考える」、自己決定していくことを繰り返すことで、子どもの学びは「主体的・対話的」なものとなっていく。「造形的な見方・考え方」を働かせながら、自己決定していくことが、資質・能力の高まりへとつながっていく。そして、「造形的な見方・考え方」を働かせながら、「主体的・対話的」に自分の造形活動をよりよいものにしようとする中で「つくり出す喜び 感じる楽しさ」が実感できるようになっていく。その過程での学びこそが、図画工作科における「深い学び」であると考えられる。この学びが社会や世界に造形的な視点でどのように関わるかの視座を形成するために重要であるととらえ、引き続き研究を進めることとした。

こうした授業を実現するためには、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づく授業設計と、学習において子ども一人一人の活動を適切にみとり、指導・支援につなげていくこと(評価)が大切である。そのために、教師が子どもにどんな力をつけさせたいかの題材観をもつことが大切になってくる。また、「自立的な学習者」を育てることを意識して授業を構想することで、子どもの自己肯定感を高めるとともに、子どもが、「生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力」を身に付けられることを目標にして授業をつくるようにしたい。

2 「造形的な見方・考え方」が働くような手立て

主体的・対話的で深い学びをすることを通して、育てたい力が高まっていくように、造形的な見方・考え方を働かせられるように手立てをとっていく。その際、自分で「感じる」「考える」ことを大切にし(主体的・対話的に学び)、自己決定を繰り返していけるようにする。また、手立てをうつ際には、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実するような視点を大切にし、学習活動の質を高めていけるようにしたい。

図画工作科では、そのような「造形的な見方・考え方」が働くような手立てをもとに、「本題材では・・・」と考えながら授業を構想していく。そうすることで、子どもの授業での学びが、より「深い学び」となっていけるものとした。



主体的・対話的で深い学び(自己決定の連続)

造形的な見方・考え方を働かせながら、資質・能力が高まっていくようにする。そのために、子どもが、自分で「感じる」「考える」ことを大切に、自己決定できるような手立てをとる。そうして活動することで、子どもの学びは「深いもの」となっていくと考える。

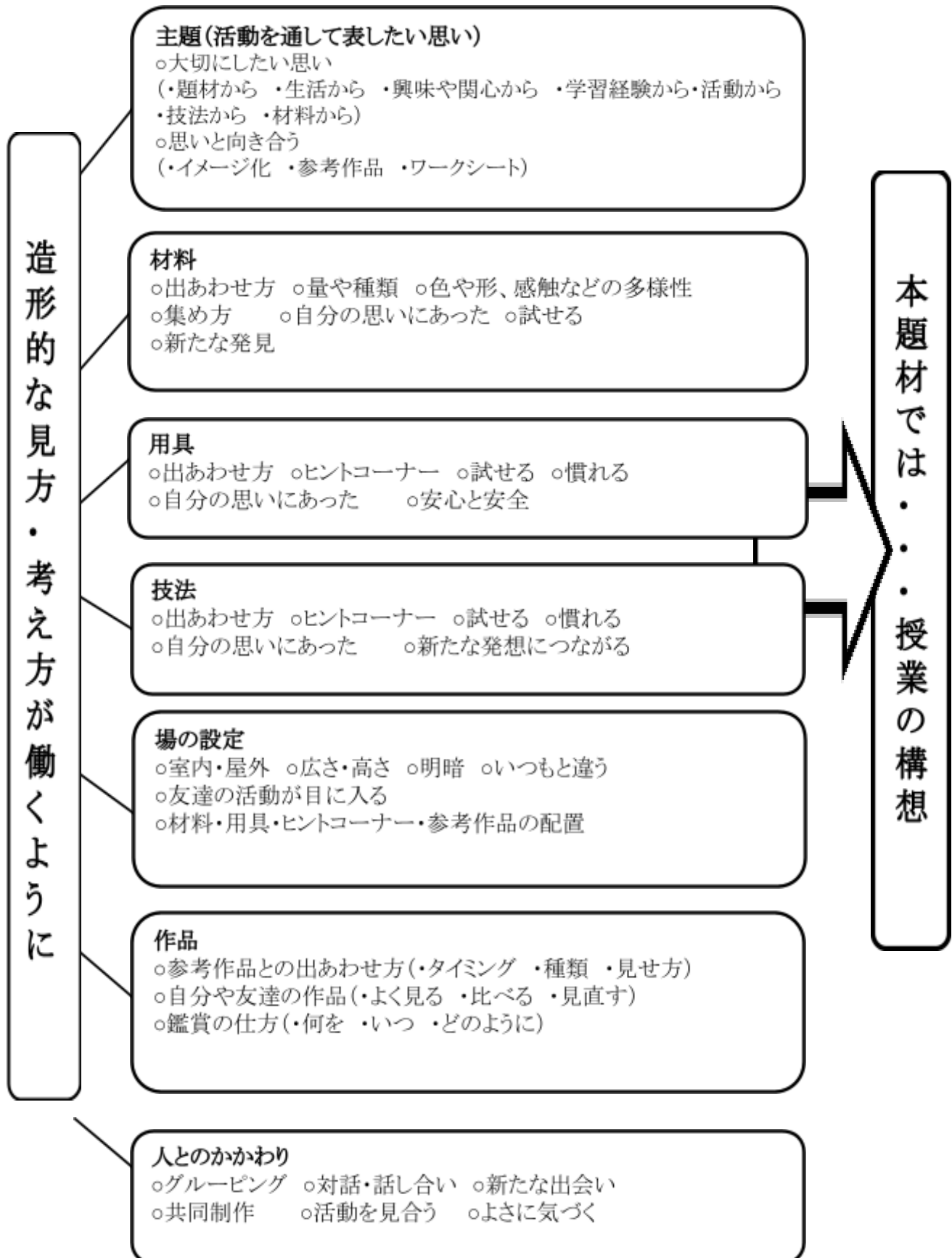
「個別最適な学び」と「協働的な学び」

「造形的な見方・考え方」が働くような手立てをうつ際には、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実するような視点を大切に、学習活動の質を高めるようにする。

「造形的な見方・考え方」が働くような手立て

「造形的な見方・考え方」を働かせながら、

1. 主題・材料・表現方法と関わるができるようにするために・・・
2. 作品をつくったりみたりできるようにするために・・・
3. 生活に活かせるようにするために・・・



<資料3>

資質・能力を考えるにあたって各学年の目標、内容及び共通事項

<第1学年及び第2学年>

学年の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1)対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して気付くとともに、手や体全体の感覚などを働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。	(2)造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて考え、楽しく発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	(3)楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。

学年の内容及び共通事項

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
A 表現	(2)表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 造形遊びをする活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくること。(技能) イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表すこと。(技能)	(1)表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。 ア 造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人工の材料の形や色を基に造形的な活動を思いつくことや、感覚や気持ちを生かしながら、どのような活動にするかについて考えること。(発想・構想) イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、表したいことを見付けることや好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えること。(発想・構想)	内容の中には、「学びに向かう力、人間性等」にあたる内容はないので、各学年の目標を参考にする。 楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。
B 鑑賞		(1)鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な材料などの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。(鑑賞)	
共通事項	[共通事項]ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くこと。(知識)	[共通事項]イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。	

<第3学年及び第4学年>

学年の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1)対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して分かるとともに、手や体全体を十分に働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。	(2)造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて考え、豊かに発想や構想をしたり、身近にある作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	(3)進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

学年の内容及び共通事項

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
A 表現	(2)表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 造形遊びをする活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、組み合わせたり、切っただり、形を変えたりするなどして、手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくること。(技能) イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、活動を工夫して表すこと。(技能)	(1)表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。 ア 造形遊びをする活動を通して、身近な材料や場所などを基に造形的な活動を思いつくことや、新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えること。(発想・構想) イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けることや用途などを考え、形や色、材料を生かしながら、どのように表すかについて考えること。(発想・構想)	内容の中には、「学びに向かう力、人間性等」にあたる内容はないので、各学年の目標を参考にする。 進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。
B 鑑賞		(1)鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。(鑑賞)	
共通事項	[共通事項]ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じ分かること。(知識)	[共通事項]イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。	

<第5学年及び第6学年>

学年の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1)対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を活用し、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。	(2)造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品などから自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	(3)主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

学年の内容及び共通事項

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
A 表現	<p>(2)表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 造形遊びをする活動を通して、活動に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくること。(技能)</p> <p>イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具などについての経験や技法を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。(技能)</p>	<p>(1)表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。</p> <p>ア 造形遊びをする活動を通して、材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思いつくことや、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考えること。(発想・構想)</p> <p>イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見付けることや、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考えること。(発想・構想)</p>	<p>内容の中には、「学びに向かう力、人間性等」にあたる内容はないので、各学年の目標を参考にする。</p> <p>主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。</p>
B 鑑賞		<p>(1)鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。(鑑賞)</p>	
共通事項	[共通事項]ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。(知識)	[共通事項]イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。	